

## 第 85 回麻布獣医学会 一般演題 7

# 排便困難を呈した骨盤内骨肉腫に対して術前照射により QOL が改善した犬の 1 例

出浦 知也, 圓尾 拓也, 松崎 智彦, 斑目 広郎, 信田 卓男

麻布大学附属動物病院

## 【はじめに】

骨肉腫は、犬において最も一般的な原発性骨腫瘍であり、骨起源の悪性腫瘍の 85 % を占める。約 75 % は四肢骨格に発生し残りは体軸骨格に発生する。さらに、体軸骨格原発骨肉腫の犬 116 頭の研究によると骨盤での発生は 6 % と報告されている。今回、排便困難および歩行困難を呈する骨盤内の骨肉腫に対して術前放射線療法を行った後に、緩和的な外科切除により排便状態の改善を得られたため報告する。

## 【症 例】

ラブラドルレトリバー、去勢雄、13 歳。3 カ月前より認められている排便困難・歩行困難を主訴に紹介動物病院を受診。腹部 X 線検査にて直腸背側に腫瘤を確認。細胞診では異型成の強い、間葉系～円形の細胞群が採取され、精査・治療を目的に本学動物病院を受診した。

## 【臨床検査所見】

排便困難、歩行時に後肢のナックリングが認められ筋力が低下していたため腹部を持ち上げる補助が必要であった。血液検査では軽度の貧血、ALP507 と上昇。腹部 X 線検査では腸骨腹側に石灰化を伴う腫瘤を認めた。CT 検査では L7～S3 椎体の腹側に縦 7.6 × 横 5 × 高さ 6 cm の骨盤腔内を占拠し直腸を外側から圧迫する腫瘍性病変が認められ、外腸骨リンパは軽度腫大し、肺に明らかな転移を疑う所見は認

められなかった。

## 【治療と経過】

高エネルギー X 線による放射線療法を 6Gy、4 週間で合計 24Gy 照射した。第 49 病日、恥骨・坐骨切除術および緩和目的の骨盤内腫瘤の切除を行い、術中アクリジンオレンジ希釈液の術野への散布と 5Gy 照射を併用した。病理組織診断は骨肉腫であった。放射線療法から 4 カ月間、外科療法から 2 カ月間に渡り、良好な排便状態・歩行状態を維持する事ができた。しかし第 114 病日には、局所再発を認め、現在経過観察中である。

## 【考 察】

骨盤内腫瘍の臨床症状は腫瘤の圧迫による排便・排尿困難などにより QOL の低下が懸念される。今回放射線療法と腫瘤切除は重篤な合併症を引き起こすことがなく、排便困難が改善されたことから、腫瘍に対する骨盤腔内閉塞を改善するためには有効な治療法の一つである可能性が示唆された。また、腫瘍内切除のため腫瘍細胞の播種によるがん性腹膜炎が危惧されたが、術前照射とアクリジンオレンジを術中に使用することで腫瘍細胞を殺し、予防できた可能性も考えられた。しかしながら、一時的に劇的な QOL の改善が認められたものの、術後 2 カ月後には局所再発が認められた。この事から、骨盤内骨肉腫への治療の再検討が必要であり、比較的珍しい骨盤内骨肉腫の貴重な 1 例と考えられた。